



「樽子山会」が発足しました

第 25 期 畠 豊彦

母校校舎が 1975 年に高埜に移転してから 30 余年がたちました。若い世代には高埜の前の校舎が樽子山にあったことをご存知ないかもしれません。前身である秋田県立能代中学校の校舎が市内樽子山に設立されたのは 1926 (大正 15) 年です。その後、1944 年には火災で校舎が全焼し、1948 年に新校舎が建設されましたが、現在の高埜校舎に移転するまでの約 50 年間は樽子山時代でした (卒業生約 1 万 2 千人)。

現在、能代市内の旧校舎跡には文化会館、中央公民館、図書館等が建っており、一隅に第 15 期生有志が建立された「青春」の二字を刻む石碑が樽子山時代の証人のように厳然と立っています。近年、校歌の一節にある「平和のすがた樽子山」で青春を謳歌した同窓生たちから、懐かしい樽子山時代を偲ぶ親睦の集いをもちたいという声が高まりました。幸い「樽子山会」と称する同期会を続けてこられた第 21 期生 (五十嵐資和氏他約 20 名) が新たな「樽子山会」に拡大発展させることを快諾され、東京同窓会の中の同好会の一つとして新たな「樽子山会」を置くことが 3 月の幹事会で承認されたというわけです。

去る 5 月 26 日の発足会には、14 期の嶋田駿作氏、15 期の吉田信一氏の大先輩も参加され、全員で 19 名が参加しました。私が事務局として発足の経緯について報告し、山縣さんの司会で開会しました。各自が現在や過去の仕事などについて自己紹介し、母校や後輩のために何をなすべきか、今の高校生は何の不自由もない生活のなかでどれだけ自分の目指す志を持つことができているか、自分の進路に希望を持っているのか、それを持たせるにはどうするのかなど、年齢 70 歳前後の同窓生達が自分の青春を振り返りながら後輩達の心の満足度を憂える熱い発言が続きました。いや、もっと憂うべきは郷土の産業や行政のことだ、などと郷土の話題も尽きませんでした。

今回の樽子山会は 11 月頃開催することとし、下記の者を役員として選出し運営を一任することに決定して閉会となりました。「樽子山会」は、旧制能中の卒業生を中心とした会であるとともに、樽子山校舎で学んだ同窓生の親睦会であります。どうぞ、遠慮なく参加することにより先輩後輩の絆を深め合うことを期待します。

【樽子山会役員】会長：畠豊彦 (25 期)、幹事長：山縣輝輔 (24 期)、副幹事長：畠山信孝 (26 期)、事務局：佐々木章 (26 期)



修学旅行気分で「東京探訪の会」

第 46 期 吉田真由美

故郷をはなれ、長年暮らしてきた東京ですが、まだまだ知らない面がたくさんあります。「東京探訪の会」は、そんな東京を再発見しようという同好会です。年 2 回の予定で、家族の参加も歓迎です。

第 1 回は今年の 6 月 16 日土曜日、皇居東御苑を散策しました。参加者は 10 人。天守台や松の廊下跡、百人番所など、江戸城の名残を探訪し、ちょっとした修学旅行気分を味わいました。

「都道府県の木」の一面では、もちろん秋田杉をチェック！ちょうど花菖蒲が見頃で、都心とは思えない豊かな緑と花も楽しむことができました。

「東京探訪の会」に興味を持たれた方、どうぞ東京同窓会の事務局までお問い合わせください。

第 1 回・東京探訪の会参加の皆さん

